

【日本の大学】第30回——東京医科歯科大学：医・歯学融合通じ、先進医療を提供

東京医科歯科大学は、かつて学問と教育の聖地であった東京・湯島の昌平坂に本部があり、医学と歯学の融合を通じて、先進的な医療の実践に従事する国立の医療系総合大学院大学である。

創立は1928年であり、東京高等歯学医学校として東京・一ツ橋に開設された。30年には湯島に移転、第2次大戦中の44年には東京医学歯学専門学校となり医学科を置いたが、間もなく終戦となった。46年8月、東京医科歯科大学（旧制）が設立されたが、51年4月には、国立学校設置法に基づいて新制の東京医科歯科大学として発足した。このとき、医学部医学科、歯学部歯学科としてスタート、同時に歯科材料研究所（現在は生体材料工学研究所）、歯学部附属歯科衛生士学校（現在は歯学部口腔保健学科口腔保健衛生学専攻）を併設した。

以下、東京医科歯科大学のホームページなどから大学の歴史や現状をみてみよう。



東京医科歯科大学の正門

学問の府、湯島に立地

江戸時代、大学の本部がある辺りは学問（儒学）の府であった聖堂（孔子廟）の一部や昌平坂学問所（昌平黌）があった。1797年に、学問所の学寮、宿舎が建てられ、幕府の旗本や各藩の藩士の子弟を対象とした教育が実施された。

明治維新以降、学問所は新政府に引き継がれ、昌平学校、大学校となったが、1871年に文部省が置かれたことで、儒学の府としての役割は幕を下ろした。この地はその後、東京師範学校（のちの筑波大学）や東京女子師範学校（のちのお茶の水女子大学）が開校されるなど、近代教育発祥の原点となる施設が置かれた。なお、湯島聖堂は、1923年の関東大震災で焼失したが、その後国の史跡として再建、保存されている。



近代教育発祥の地 湯島一丁目 4 と 5 (湯島聖堂・東京医科歯科大学)

新制大学となって以降、東京医科歯科大学は、大学院（医学研究科、歯学研究科）の設置（1955年）、医学部附属衛生検査技師学校の設置（1962年）、教養部の設置（1965年）、難治疾患研究所の開設（1973年）、大学院研究科の拡充、総合大学改革推進機構の設置（2018年）、高等研究院の設置（同）など、拡充強化を図ってきた。

現在は、医学部医学科、医学部保健衛生学科、歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科と教養部、そして大学院医歯学総合研究科、大学院保健衛生学研究科があり、研究所は生体材料工学研究所、難治疾患研究所を擁している。

キャンパスは本部など大半が湯島地区にあり、ほかに神田川を挟んだ駿河台地区に生体材料工学研究所などの建物がある。また、千葉県市川市にある国府台キャンパスでは、1年次の教養部の授業が実施されているほか、体育館、寮、武道館、国際交流会館などがある。



湯島キャンパス・駿河台キャンパス

知と癒しの匠

基本理念として『知と癒しの匠』を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献することを掲げている。「知」とは、知識、技術、自己アイデンティティであり、「癒し」とは、教養、感性、多様性を受け入れるコミュニケーション能力であり、これらが融合するところに「匠」への道が開かれる、としている。

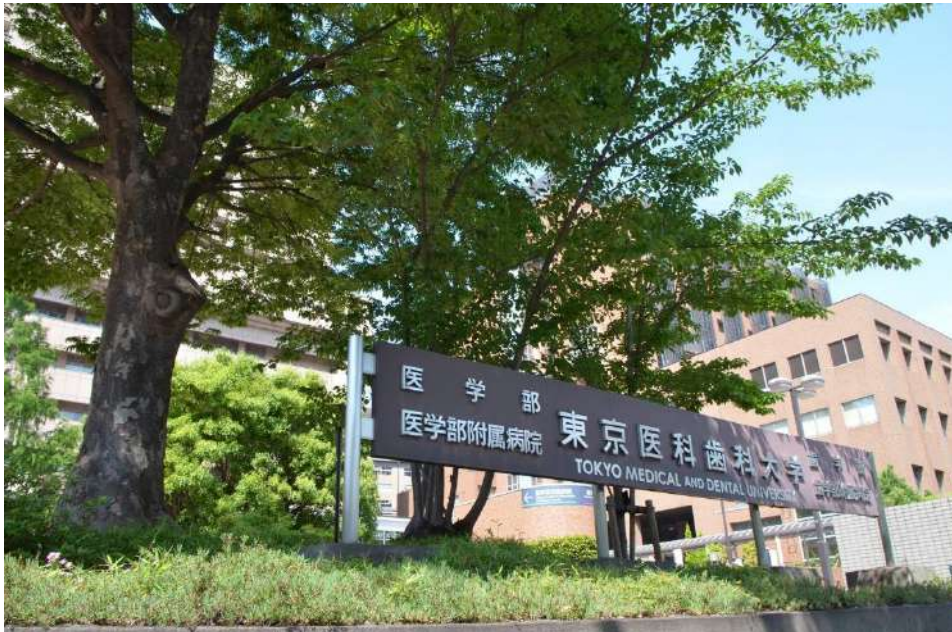
そのうえで、教育理念として(1)幅広い教養と豊かな人間性を備えた人間性の涵養(2)自ら考え解決する創造性と開拓力(3)国際性豊かな医療人の養成——という三つを掲げた。研究面では「さまざまな学問領域の英知を結集して、時代に先駆ける研究を推し進め、その成果を広く社会に還元する」、医療面については「心と身体(からだ)を癒す質の高い医療を、地域に提供するとともに、国内さらに世界へと広めていく」ことを理念に掲げた。この理念に基づき、全構成員がそれぞれの役割を自覚し、自らの使命を果たす——と謳っている。

全学生が教養部で学ぶ

大学に入学した学生は、学部・学科の別なく教養部で1年間学ぶ。さまざまな文化や多様な世界を理解できる幅広い教養と、他者を理解するための豊かな人間性と倫理観、自ら問題を提起し解決する力を兼ね備えた人材を育成する狙い。緑豊かな国府台キャンパスで全学生が過ごす。人文社会科学系、自然科学系、外国語系、保健体育学系などの科目が用意されている。2年次以降も、湯島キャンパスにおいて教養部が担当する科目が開講されている。

医学部は 1951 年に設立され、医学科と保健衛生学科からなる。医学科は、「疾患の治療と予防及び健康の保持・増進を研究し、その成果を広く医療・福祉に応用する医学の発展を担う指導者を養成する」との理念を掲げる。授業科目としては、機能形態学、機能協関学、分子遺伝学、感染免疫学、病因病態学、環境社会医学、全人診療学、内科学、小児医学、精神医学、外科学、感覚器医学、皮膚医学、女性医学、尿路生殖医学がある。

6年間で必要な科目を学ぶカリキュラムが組まれている。1年目は教養部で学ぶとともに、後期には週1日、早期臨床体験実習などを通じて医療人としての意識を高める。2年次から4年次では、生体と病気のメカニズムを講義と実習を通じて学ぶ。特に4年次では、プロジェクトセメスターと呼ばれる長期の自由選択学習が実施され、自らが興味を持った課題について半年間研究をして、科学的考え方、結果のまとめ方を学ぶ。基礎医学の研究者養成コースも設けられている。



医学部医学部附属病院

その後は、臨床導入実習で基本的診察技法を習得。さらに、全国共用試験を経て、医学部附属病院や関連病院、診療所や在宅医療機関を含むさまざまな医療現場で約1年半にわたって診療参加型臨床実習を行う。医療系総合大学の強みを生かした歯学科との融合教育や保健衛生学科とのチーム医療について学習する機会も用意されている。

国際化が進む将来を見据えて、英語で医学を学ぶ講義が1年次後期から3年間にわたっ

て行われるほか、海外研修奨励制度や海外の一流提携大学で学ぶ機会もある。

保健衛生学科は、看護学専攻と検査技術学専攻からなる。看護学専攻の科目には、基礎・臨床看護学と地域保健看護学があり、検査技術学専攻の科目には基礎検査学と病因・病態検査学がある。

保健衛生学科（看護学専攻）は看護実践能力の高い看護師を養成するため、体験学習を重視し、自己理解を深めながら専門職にふさわしい感性を磨きコミュニケーション能力の向上を図る。4年間で解剖学、生理学、病態学、薬理学、栄養学などの専門基礎科目や、成人、精神、小児、母性、老人、在宅看護学、地域看護学など基礎看護学の体験と理論を体系的に学ぶ。

1989年に発足した保健衛生学科（検査技術学専攻）は、国立大学の検査系のパイオニアとして、豊かな教養と幅広い専門知識を持つ医療人を養成する。特徴は、先端医療技術の進展に対応できる学際的視野と研究能力を備え、医学・保健医療における検査技術の発展に寄与し、新たな世代の指導にあたる研究者・教育者を育てる。

歯学部は歯学科と口腔保健学科からなる。歯学科は1928年に設立された東京高等歯科医学校以来の伝統のある学科である。歯科医師養成機関のフロントランナーにふさわしく、経験豊かな教育スタッフ、充実した施設、多彩な教育コンテンツを用意し、歯学の基礎から臨床に至るまでの質の高い教育を提供している。

超高齢化社会、グローバル時代など、卒業生が社会のニーズに対応できる世界水準の教育内容を提供する。歯科医師の基本的な資質に加えて歯科医療を通しての全人的医療への貢献、複雑化する医療・疾患への対応を可能にする幅広い資質を身につけるために、医学部と緊密に連携して、2011年度から始めた医歯学融合教育に代表される新しい概念の教育プログラムを導入している。医学科と同様に6年間に歯学に関する基礎と臨床の講義と実習を行い、5年後期と6年次には包括臨床実習を実施して最終的に臨床能力判定試験に臨む。包括臨床実習とは、診療室において患者治療を直接行う経験を積む。日本で最も多い来院患者数を誇る歯学部附属病院において承諾を得られた患者を担当。原則として患者の医療面接から、診断、処理、予後観察、メンテナンスにいたる包括的全人的な治療の実戦を経験させる。

歯学部の口腔保健学科は、口腔保健衛生学専攻と口腔保健工学専攻からなる。口腔保健衛生学の前身は1951年に創設された歯学部附属歯科衛生士学校であり、2004年から4年制の教育を実施している。卒業時には歯科衛生士国家試験受験資格が得られる。口腔保健工学

専攻は前身が 1919 年に採用された技工見習生がルーツの歯学部附属歯科技工士学校で、2011 年から 4 年制となった。卒業時には歯科技工士国家試験受験資格が得られる。



先端歯科診療センター

大学は、2001 年 3 月に東京外国語大学、東京工業大学、一橋大学との間に「四大学連合憲章」を締結している。連合する各大学が、それぞれ独立を保ちつつ、研究教育の内容に応じて連携を図ることで、これまでの高等教育で、達成できなかった新しい人材の養成と、学際領域、複合領域のさらなる推進を図る」とその目的を謳っている。各大学とも、「複合領域コース」を設定し、それぞれの大学の特色のある授業科目を提供する。

東京医科歯科大学の職員数は大学、大学院など合わせて 2730 名、学生は大学院生が 1430 名（うち女子 600 名）、学部生は医学部医学科 646 名（女子 201 名）、歯学部歯学科 327 名（同 155 名）など全部で 1478 名（同 832 名）である。（2020 年 5 月現在）



2020 年度卒業式

学長は 2020 年 4 月に田中雄二郎氏が就任した。東京医科歯科大学医学部を卒業、医学部附属病院総合診療部教授、同部長、副病院長、大学理事・副学長などを歴任。

日文：滝川 進

写真：東京医科歯科大学 HP、Facebook、Twitter